

2022年度資源地質学会秋季講習会報告

秋田県のマグマ－熱水活動と鉱物資源

巡検場所：珪藻土鉱山，パーライト鉱山，ゼオライトの露頭，荒川鉱山跡，泥湯温泉，川原毛地獄

開催日：2022年10月9日(日)－2022年10月10日(月・祝)

講師(敬称略)：村上英樹(秋田大学)，左部翔大(産総研)，鈴木照洋(秋田中央高校)

参加者(敬称略)：荒岡大輔(産総研)，実松健造(産総研)，森本和也(産総研)，黒川恭平(三井金属鉱業(株))，大竹翼(北大)，星蒼空(北大)，米津幸太郎(九大)，伊藤茜(九大)，Ngwanaotsile Rita Gorata(九大)，大町駿之介(九大)，笹井智之(九大)，小濱和樹(九大)，Mudasirullah Stanikzai(秋田大)，山崎陽生(信州大)，Manuel Nopeia(秋田大)

[計 18 名]

巡検初日の10月9日(日)は、秋田駅東口ロータリーに集合し、午前8時にマイクロバスにて巡検に出発した。まず、道の駅かみこあにて巡検の旅程を説明して、案内者と参加者の自己紹介を行なった。その後、北秋田市にある(株)中央シリカの珪藻土鉱山へ移動し、会社の方の案内の元で工場見学を実施した後、採掘場での露頭観察を行った(写真1)。次に、同じ北秋田市に位置する(株)昭和化学工業のパーライト鉱山へ移動し、案内者の元で鉱山での露頭観察を行った(写真2)。鉱山見学後は、道の駅たかのすで昼食を取り、きみまち阪県立自然公園に移動し、ゼオライト鉱床の原岩である凝灰岩の見学と地形の観察を行った。当初の予定ではその後に近くのゼオ

ライト鉱山を訪問する予定であったが、先日の豪雨の影響で道路状況も悪く鉱山訪問ができなくなったため、鉱山周辺でゼオライトやその原岩である凝灰岩が観察できる露頭に移動し、観察を行った(写真3)。帰りは途中で道の駅ふたついでの休憩を挟みつつ、秋田駅東口ロータリーに18時頃に戻り、初日の旅程を終えた。

巡検2日目の10月10日(月・祝)は、前日と同じく秋田駅東口ロータリーに集合し、午前8時にマイクロバスにて巡検に出発した。まず、大仙市にある荒川鉱山跡を訪問し、鉱山跡周辺の廃石を観察した後に、沢に露出する鉱脈の露頭にて案内者の解説を聞いた(写真4)。また、鉱化作用に関係する貫入岩の観察も合わせて行った。



写真1 (株)中央シリカの珪藻土鉱山での露頭観察の様子



写真2 (株)昭和化学工業のパーライト鉱山での露頭観察の様子



写真3 ゼオライトの露頭での観察の様子



写真4 荒川鉾山跡のズリ堆積場にて露頭を前に説明を行う案内者の左部氏

その後、道の駅協和で昼食を挟み、湯沢市にある泥湯温泉に移動して、現生の熱水系である温泉水や変質帯を観察した。その後、川原毛地獄へ移動し、硫黄鉾山跡や熱水変質の産状を観察した(写真5)。帰りは高速道路のパーキングエリアにて休憩を挟みつつ、秋田駅東口ロータリーに17時半頃に戻り、全ての旅程を無事に終えた。

今回秋季講習会を実施した日程は新型コロナウイルスの新規感染者数も比較的落ち着いていた時期であったが、募集を行った8月はまだ第7波の真っ最中であったこともあり、参加希望者(特に民間企業からの希望者)は例年に比べると少なかった。それでも、大学・研究機関を中心に17名の参加希望があり(2名は直前にキャンセル)、4年ぶりに秋季講習会を行うことができた。巡検は3連休に行われたため、秋田周辺のホテルの確保が困難

であった参加者もいた。また、2日目の午前中はあいにくの雨であったが、予定していたほとんどの地点で露頭観察を行うことができた。今回の巡検では、国内では貴重な稼行中の鉾山を見学させていただくとともに、訪問した鉾山では鉾石試料の採取もできたため、参加者もたくさん試料を研究・観察用に持ち帰ることができ、大いに満足している様子であった。また、案内者側で非常に細密な計画を立てて頂き、巡検案内書も充実した内容で、参加者にとって大変勉強になる内容であった。

最後に、講師を引き受けて頂いた村上氏、左部氏、鈴木氏と、鉾山への訪問を許可いただいた(株)中央シリカと(株)昭和化学工業の関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

(執筆：荒岡大輔)



写真5 川原毛地獄での集合写真